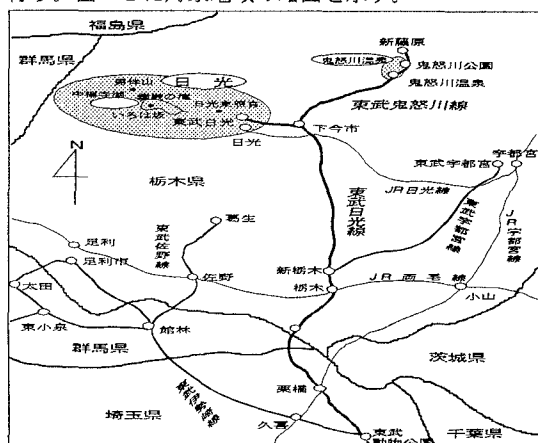


足利工業大学大学院	学生員	益子輝男
足利工業大学工学部	正会員	為国孝敏
足利工業大学工学部	正会員	中川三朗

本研究では、鉄道整備と観光地との関連を探るために、東武鉄道とその沿線の観光地である日光市、藤原町を対象として、実証的な分析を行うこととする。具体的には東武鉄道の施策が、国際的観光地である日光市および、今や関東でも屈指の湯治場である鬼怒川温泉を持つ藤原町に、どのような整備効果をもたらしたのかについて、戦後、観光事業が本格的になり始めた時代（1955年～1975年）の変遷を視座として考察を行う。図-1に対象地域の略図を示す。



本研究の位置づけを明確にするために、関連する既存研究の整理を行う。まず、観光地および観光地開発に関するものについて整理すると、観光地の発展過程についてのみ述べているものがほとんどであり、その後の発達、特に戦後について研究を行っているものは少ない。また、道路整備の観点からの研究は見られる

東武日光線は、東武伊勢崎線の東武動物公園から分岐して東武日光に至る区間（総延長94.5km）のことで

474

ある。東武鉄道は、1912（明治45）年の佐野鉄道との合併を機に日光進出に乗り出し、葛生から鹿沼までの鉄道敷設免許の下付を受ける。その後1921（大正10）年に現在の路線へと変更され、1929（昭和4）年10月に開業した。

（2）東武鬼怒川線

東武鬼怒川線は、東武日光線の下今市から分岐して新藤原に至る区間（総延長16.2km）のことである。1943（昭和18）年に下野電気鉄道を買収したことにより東武鉄道の路線となったもので、その敷設は下野電気鉄道の前身である藤原軌道によってなされ、1920（大正9）年1月に開業した。

5. 観光地への整備効果

（1）日光市

東武鉄道は1955（昭和30）年から1975（昭和50）年にかけて、特急・急行のスピードアップ、運行回数の増加などのサービスを行い（表-1）、また関連会社（表-2）とともに、スキー場などの開設を行った（表-3）。こうした中で、日光市における年間入込客数は、1955年に230万5千人だったものが、1975年には782万7千人となり、552万2千人の増加となった（図-

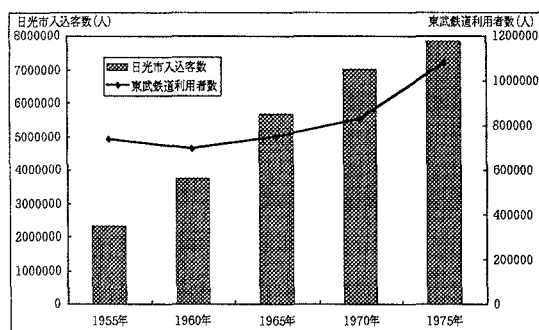


図-2 日光市入込客数・東武鉄道利用者数の推移

表-1 東武鉄道の施策

年	東武鉄道の施策
1955	日光線にて山岳夜行列車運転開始。
1956	浅草・東武日光間115分MAX105km/h
1960	新型デラックスロマンスカー就役、7往復運転。
1962	浅草・東武日光104分MAX110km/h、9往復運転
1964	DRCにスチュワーデス、11往復運転
1969	日光・鬼怒川に不定期急行運転開始。14往復運転
1973	日光線全線複線30年ぶりに復活、18往復運転開始
1974	特急スピードアップ(浅草・東武日光間・101分)

表-2 東武鉄道関連会社

設立年	会社名	備考
1955年	五十里湖総合開発会社	藤原町
1960年	東武興業株式会社	藤原町
1961年	霧降高原開発協議会	日光市：1970年まで
1970年	日光開発協議会	日光市

表-3 日光市における観光地開発

年	概 要
1956	湯元スキー場リフト開設
1961	霧降高原開発協議会、霧降観光道路、霧降高原スキー場建設
1965	金精道路、第二いろは坂道路開通
1966	スケートセンター開場

2)。また、東武鉄道の利用者客数も1955年には73万7千人だったものが、1975年には107万7千人となり、34万人増加している。

（2）藤原町

東武鬼怒川線においても東武日光線と同様に、1955年から1975年にかけて、特急・急行のスピードアップなどのサービスを行い、関連会社とともに観光施設の建設を行った。また、温泉旅館・ホテルの開業も相次いだ（表-4）。これらのことより、1955年には64万7千人だった藤原町の宿泊客数は、1975年には192万1千人となり、127万4千人の増加となった（図-3）。また、東武鉄道の利用客数も1955年には84万9千人だったものが、1975年には93万6千人となり、8万7千人増加している。

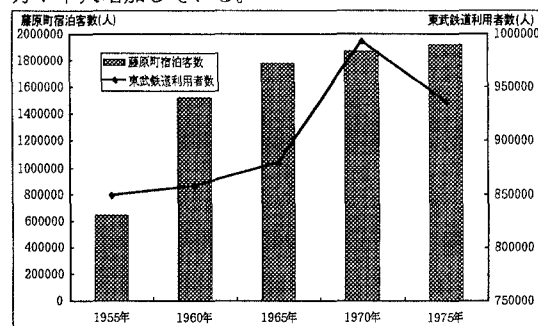


図-3 藤原町宿泊客数・東武鉄道利用者数の推移

表-4 藤原町における観光地開発

年	概 要
1956	「辰巳荘」「あさや支店」開業
1957	「旅館染吉」「松屋旅館」「鬼怒好旅館」「三晃荘」「旭屋旅館」「佃政旅館」開業
1958	「みつえ荘」「福住旅館」開業
1959	「ホテル見晴」「旅館一福」開業
1960	東武興業株式会社、丸山にロープウェー建設
1961	鶏頂山スキー場開場
1969	枯木沼リフトとレストハウス開設
1970	見晴リフト、見晴ロッジ開設

6. おわりに

今回は観光地域への影響を鉄道事業者(東武鉄道)が行った施策(サービス)を視座として、観光地への入込客数または宿泊客数などで分析した。今後の課題として、国有鉄道(JR)の行った施策、自家用車利用者に関する調査などを行う必要があると考える。